

## 元弁護士の高さんの所在 今も口を閉ざす当局



©Amnesty International

中国の人権派の元弁護士・高智晟（Gao Zhisheng）さんが2017年8月13日、消息を絶ちました。その後、北京の警察施設で拘束されているらしいことは分かりましたが、3年近く

たった今も、居場所や体調、拘束理由などの詳細は不明のままです。

自宅から姿を消す2カ月ほど前、高さんは香港の雑誌の取材で中国共産党を批判していました。また同じ頃、中国当局から受けた暴力的な取り調べや投獄などの体験をまとめた回顧録を台湾で出版していました。これらの発言や出版が、拘束につながった可能性があると言われています。

2005年、高さんは、多くの人権活動家や宗教関係者を弁護したと思われる理由で、弁護士資格が剥奪されています。しかし、その後も人権活動家として、精力的に多くの人の力になってきました。

例えば2006年8月、強制人工中絶の違法性を訴えた「盲目の人権活動家」陳光誠さんが、不当にも「交通妨害」「公共物破壊」の罪に問われた時に、裁判を監視するために裁判所に駆けつけたのも、高さんでした。

### ■支援してください

拷問や虐待を防ぎ、高さんが一刻も早く自由の身となるよう、中国政府に働きかけてください。[こちらのウェブサイト](#)または、インターネットで「アムネスティ UA Gao さん」と検索して、最初に表示されるウェブサイトの「要請文」をご利用ください。

なお、あて先は、「コピーの宛先」の[中国公安部長宛](#)にお送りください。郵便またはメールのいずれでも結構です。ぜひ、皆様のご支援をお願いします。

## インドネシアはロヒンギャ難民を守れ

ロヒンギャ難民およそ400人が、生死に関わる危険な状況に置かれています。インドネシアへの上陸を認められずに海上で立ち往生し、数十人がすでに死亡したようです。インドネシアだけでなく東南アジアの他の国も、新型コロナウイルスの感染対策を理由に、ロヒンギャ難民の上陸を拒否しています。

ミャンマーの北西部のラカイン州に住んでいたイスラム系ロヒンギャの人たちは、国軍による掃討作戦で国を追われてきました。その多くが隣国バングラデシュに逃れています。一部は、船でベンガル湾を南下し、マレーシア、タイ、インドネシアなどの国を目指してきました。

しかし、たどり着いた国から上陸を拒否されることが多く、数週間や数カ月間、海の上を漂流し、陸に上がれない事態が発生しています。

この5月には、マレーシア当局に上陸を拒否された数十人が死亡するという悲しい出来事がありました。生き延びた人たちは、バングラデシュへの上陸を許可されましたが、6月に入ると、そのバングラデシュも上陸を拒否しています。

インドネシアは、バリ・プロセスという地域協定の共同議長国です。今回のロヒンギャ難民の危機に地域ぐるみで対処し、庇護を求めて漂流する人たちの捜索・救助活動を主導する責任があります。東南アジアの諸国は、ロヒンギャ難民に早急に、食料、水、医薬品などを届け、コロナ禍を上陸拒否の口実にすることなく、受け入れなければなりません。

### ■支援してください

ロヒンギャ難民を受け入れるよう、インドネシア政府に働きかけてください。[こちらのウェブサイト](#)または、インターネットで「アムネスティ インドネシア 漂流」と検索して、最初に表示されるウェブサイトの「要請文」をご利用ください。

ぜひ、皆様のご支援をお願いします。

## ラジャブさんが保釈されました



バーレーンでよく知られた人権活動家ナビール・ラジャブさんが6月9日、釈放されました。

人権 NGO「バーレーン人権センター」の代表を務めるラジャブさんは、2012年ごろから繰り返し、家宅捜索や取り調べ、拘禁を受けてきました。

2016年には、獄中からニューヨークタイムズに公開書簡を送り、「この国は、民主主義を求めると、投獄、拷問、時に死の制裁を受ける」と訴えました。また、公開書簡の中で、バーレーンも参加するイエメン紛争で、多数の市民が犠牲になっていることを嘆き、ツイッターでも批判していました。

これらの指摘で、「戦時での誤情報の流布」など複数の罪に問われ、2018年12月に実刑5年が確定し、服役となりました。

勾留期間を含む収監期間の残り3年は、社会奉仕という形で務めることになり、6月半ばから、コミュニティでの活動を始めたそうです。

4年ぶりにインスタに投稿したラジャブさんは、連帯のメッセージを送ってくれた人たちに、「自分や仲間が、どれほど勇気づけられたかわからない」と語っています。

ラジャブさんのアクションは一旦休止します。しかし、表現の自由を行使したためにかげられた容疑は、取り消されたわけではありません。引き続き、当局の対応を注視していきます。

## 李さんが保釈されました



この2月から4カ月間、勾留されていた活動家の李翹楚(Li Qiaochu)さんが6月19日、保釈されました。

ジェンダーに基づく暴力や労働者の権利の取り組みで知られる李さんは2月16日、警察に連行され、2カ月後、「指定居所監視居住」と呼ばれる勾留措置を受

けていることがわかりました。

拘束の背景には、ジェンダーに基づく暴力への取り組みや他の活動家との連携、パートナーが弁護士が集まりに参加したことなどがあると推測されています。

李さんは、労働者や女性などの平等の権利にかかわる問題に長年、関わってきました。北京当局が、2017年に都市整備の一環で低所得者層の人たちの排除に乗り出したときも、李さんは、他のボランティアと共に退去させられた人たちの仕事や住居探しに奔走しています。

精力的に活動する李さんですが、昨年、鬱病と診断されたため、長期の拘束が体調に与える影響が心配されていました。そんな中、今回、保釈までの勾留期間が、4カ月と比較的短かったのは、不幸中の幸いです。世界中の人びとが、李さんの釈放を求めて当局に働きかけたことが、功を奏したと思われます。

元気な姿で帰宅した李さんは、自分の支援活動に参加したすべての人たちに感謝し、「私や家族を支援してくれてありがとう」とメッセージを送っていました。

### UA ニュース

発行:アムネスティ・インターナショナル日本

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 2-12-14 晴花ビル 7F

TEL:03-3518-6777 FAX:03-3518-6778

E-mail: uaoffice@amnesty.or.jp

UA 年会費 3000 円

郵便振替 00120-9-133251

加入者名 公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本